
クサリイチゾク（四話目）

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クサリイチゾク（四話目）

【Nコード】

N5502R

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

これはココロ様のリレー小説です

（前書き）

ココロ様は連載にされていますが、短編で投稿しました。

クサリイチゾクの『クサリ』とは、鎖の意味もある。『鎖』は束縛を意味し、一族の結束を意味する。

また『クサリ』は不老不死の意味あいを持つ、クサリイチゾクの『クサリ』は『腐り』の意味も含まれる。成人を迎えた時点で不老不死の能力が開花し、身体の『腐り』が停止する。腐る事のない身体は、新陳代謝機能が停止し、成人のまま生き続ける。

特徴は、身体の何処かに現れる鎖のような入れ墨に似た痣、一生消える事なく、身体に残り続ける。

しかし、一族を抜けようとする者も後を絶たない。一族を抜ける方法は至って簡単で、身体にある入れ墨のような痣を消すだけだ。

そうする事で一族から隔離され、一人の人間として生を全うする。不老不死の能力を失い、一族の結束も失う。

しかし、何百年、何千年を生きる不老不死に比べれば、人間らしい一生を全うできるという考えなのである。

ここに一人の青年がいる。名を草離^{くさり} 八雲^{やくも}という。年齢は、通常人間であれば523歳。しかし容姿は20歳のままであった。

彼もまた、一族から抜け出す計画を立てていた。

『かれこれ5世紀以上を生きてきた。しかし、知り合いになった者達は歳老いて、自分だけが取り残される。こんなの、もう嫌だ!』

彼は決意を固め、一族の痣を消しに行った。

一族の入れ墨のような痣は、一族の者にしか消せない。

長老に理由を話し、痣を消す決意を固めた。

しかし、一族に代々伝わる痣を消す事は容易な事では無かった。

不老不死だけでなく、一族個々に継承される特殊能力（一般的には超能力というらしいが）も取り除く為、痣の消去だけでなく、精神面への処置も施される。

身体的苦痛と精神的苦痛を半日以上耐えつづけ、疲労困憊で家に

帰った。

「ただいま……」

家に入ろうとした瞬間、家に入る事を家族から拒まれた。

クサリイチゾクは、一族のみの結束を律儀に守る一族。

その為、一族から抜けた八雲は一族として認められなくなっていたのだった。

「これからどうすればいいんだ……」

ふと口から出た愚痴を溜息まじりに言うと八雲は、一族の集落を立ち去った。

（後書き）

続きが書きたい方はココロ様まで、ご連絡ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5502r/>

クサリイチゾク（四話目）

2011年10月8日01時07分発行